

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

A News letter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No.1 Nov 2015

プロジェクト誕生のいきさつ

日本産科婦人科学会 (JSOG) は国際産科婦人科連合 (FIGO) 発足以来その理事国として活動してきました。FIGO は様々な資金を得て 2015 年国連ミレニアム開発目標 (MDGs) 5A (2015 年までに妊産婦の死亡率を 1990 年の水準の 4 分の 1 に削減する) 達成のための事業を強力に推進していましたが、JSOG は残念ながら海外では活動にはなかなか関与できていませんでした。しかし、JSOG 会員の方々は各国で JICA 母子保健強化事業などに重要な貢献をしておられ、このような活動を JSOG としても応援し、関心をもつ先生方のすそ野を広げるとともに、私たち学会間でこそできる、現地産婦人科医療のレベルアップの方策がないか、と模索しておりました。

カンボジアは内戦の終了後、日本の産婦人科医たちが JICA 母子保健事業に深く関わり、継続的支援を続けた結果、MDG5A を 2015 年に達成した 9 か国の一つになりました。カンボジア産婦人科学会 (SCGO) が設立されていましたが、まだ組織が脆弱でありました。そこで JICA 活動で活躍された先生方のお力を借りて JSOG と SCGO の間で 2012 年より学会間交流を開始し、今回「JICA 草の根技術協力事業」に応募した工場労働女性を対象としたヘルスプロモーションと子宮頸がん検診の実施、早期発見・治療のための体制整備のためのプロジェクトが採択され 2015 年 10 月より活動を開始した次第です。このプロジェクトを通じカンボジアの女性たちに健康を包括的に考える「リプロダクティブヘルス」の意識が根付き、子宮頸がん検診体制の整備を図ることを通じて SCGO の組織が強化され、JSOG の国際化がより推進されることを期待しています。両国産婦人科の先生方の積極的な参加をお待ちしています。これからの 3 年間どうぞよろしくお願い致します。

プロジェクトマネージャー 木村 正



プロジェクト事務所の開設！

プロジェクトを始めるにあたり、まずは事務局を開設する必要があり、国立母子保健センターの一角に、カンボジア産婦人科学会事務局を開設しました。なにもなかった倉庫のような部屋が、活気あふれる事務所に生まれ変わりました。



写真(左) Before
何も無いがらんとした部屋

写真(右) After

学会前日の準備風景。現地スタッフ 2 名の他、学生ボランティアたくさんがお手伝いに来てくれました！



現地医師の活発な活動！

プロジェクト開始に先立ち、本年 9 月に厚生労働省国際医療展開推進事業にて、国立国際医療研究センター (NIGM) が中心となり、子宮頸がん早期診断治療に関する本邦研修をおこないました。首都の 3 国立病院 (国立母子保健センター、カルメット病院、クメールソビエト病院) のカンボジア人婦人科医 6 名が参加。この 6 名が実戦部隊 (Implementing committee members) となり、子宮頸がんの診断、治療能力向上につなげていきます。研修後、自主的なミーティングが行われています！



第14回 カンボジア産婦人科学会年次学術総会開催



カンボジア産婦人科学会が主催した「カンボジア産婦人科学会年次総会」が11月20-21日の日程で、プノンペンにて開催されました。テーマは「子宮頸がん」。20日には大阪大学の医師3名による日本の子宮頸がん早期診断治療に関する発表を行い、技術的な助言や提言を行いました。全体を通して、9月の本邦研修に参加したカンボジア医師らの活躍が目立ち、自信をもって発表、議論や提言する姿は素晴らしいものでした。また、産婦人科医でありSCGO学会長でもあるProf. Koum Kanal氏から学会参加者へ、本プロジェクトの紹介と学会事務局の設立のアナウンスがあり、日本の支援への感謝を述べていただきました。



日本産科婦人科学会員の医師による実地指導開始

9月に行われた本邦研修を受講したカンボジアの婦人科医師らが、現地で適切に子宮頸がんの早期診断治療が実施可能となるように、3国立病院（国立母子保健センター、カルメット病院、クメールソビエト病院）にて、研修のフォローアップとして子宮頸がん早期診断治療に関する専門的実地指導を行いました。今回は研修の受け入れ先でした大阪大学から医師が派遣されましたが、引き続き他大学からも医師が派遣される予定です。

～カンボジアでの子宮頸がん制圧を夢見て～

私どもは、日本産科婦人科学会とカンボジア産婦人科学会が共同で行う「工場労働者のための子宮頸がんを入口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト」の視察に参加して参りました。特に専門分野の子宮頸がんの検診・診断・治療の現状把握に力を入れて見学を致しましたが、日本と違い、これらのシステムは全く整備されておりません。それを立ち上げようとするカンボジアの産婦人科の先生方の熱い思いを肌で感じる事ができました。システムがあってもそれを活用できていない日本が恥ずかしく思えたくらいです。この視察を踏まえ、カンボジアでしっかりとした子宮頸がん対策のシステムの確立のお手伝いをさせていただければと思います。今後ともご指導よろしくお願い致します。

大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学教室
上田 豊、中川慧、田中佑典



写真(上)カンボジア産婦人科学会+JSOGメンバー／(中)国立母子保健センターの婦人会に実地指導する中川医師／(下)国立母子保健センターにて婦人科医に実地指導する田中医師

プロジェクトを取り巻く動き

- 9月 : 首都の3国立病院のカンボジア人婦人科医6名を対象に子宮頸がん早期診断治療に関する本邦研修を実施
- 10月 : プロジェクト開始。事務局開設
- 11/4 : 第1回プロジェクト運営会議
- 11/17-19 : JSOG学会員による3病院の現地実施指導
- 11/16-19 : JSOG事務局長、経理担当によるSCGO事務局の運営指導
- 11/18 : カンボジア実践部隊医師と日本人医師の合同ミーティング
- 11/20-21 : カンボジア産婦人科学会年次総会開催
- 11/21 : プロジェクト対象工場視察